

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700415		
法人名	合資会社 在宅介護サービス たんぽぽ		
事業所名	グループホーム たんぽぽ (A棟)		
所在地	岡山県井原市下稲木町1268番地1		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●ご利用者様が、安心・癒し・楽しみながら生活できるように、敷地面積を広くして昔の長屋をイメージした作りをしています。又、食堂や居間・トイレ等、広い空間を歩くことにより生活リハも活かされるようになっております。

●稲倉地区ならではの季節行事等にも積極的に参加させていただき地域の人々との交流もあります。

●近くの小学校の授業の一環としてグループホーム内の清掃活動や入居者との触れあう機会もあります。

●事業所から一歩外へ出るとたんぽぽが一面に広がり、稲を植え、収穫等季節感が味わえる風景があります。

●事業所敷地内に小さな畑があり、ご利用者様主体で季節の野菜を栽培しています。

●基本的には玄関等扉は施錠せず、事業所全体が開放的な空間を維持し、ご利用者様が窮屈な思いをしないように工夫しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370700415-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 11 月 24 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設内のコミュニケーションが高く取れている、人間性を以って、上司、管理者、代表が関与できる関係があり、職員が気持ちよく就業できている。職員は、施設から見ると利用者をファミリーである意識を高く持っていて、そのサービスを常に追求し、家族である安心感を高めている。外出しても、不安で帰りたい願望を出す利用者がいても、「GHたんぽぽに帰りたい。」という気持ちになるような日常の状況を築いている。畑仕事や、利用者の意見で吊るし柿を作る作業、そのお膳立てを職員が家の柿を持ってきたり、職員家で案山子づくりをしたりして、帰りたい願望をいかになくし、どのようにすれば良いかを模索することで、家族からの様々な心配の電話が減った。さらに心配克服を家族に訴える方法として、一緒に墓参りに行ったり、写真を撮ったりして、家族観を深めている。施設内でも、職員とコミュニケーションをしっかりととり、管理者は、職員の普通の会話から悩みまで、お互いの腹の中を引き出し、夜勤時には、普段着のさりげないおしゃべりから心から溶け込み、何でも言える関係を築き、「職員はまとまってきた」、「人づくりは他所よりもしている」と管理者は自信を以っているのも窺えた。もちろん、職員の関係もまだまだ不満も多少ありがちだが、以前より落ち着いてきたのは言うまでもない。また、職員の年齢も高くなってきているが、「なんとか動けるまでは、頑張り続けたい」との意見も多く、「この施設に勤めて楽しかったと言えるような施設にしていきたい」と管理者は語る。職員が愉しく、食事と一緒に同じ空間を過ごし、利用者の人生に恩返しができる体制が徐々に産まれてきた。特に、ゲートキーパー役の職員がいて、管理者に一部始終伝える橋渡しをしているので、ソフトな深い絆が職員間で、よい風通しの関係となっている。とにかく組織的に時間をかけたことで、落ち着いた利用者思いの関係が築かれている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	他の施設には無い圧倒的なアットホーム感がたんぼの魅力と考える。利用者はもちろんのこと職員までもが、自分の家の様に生活する事を目指している。理念である「私たちは、自分の親を見てもらいたい施設を目指します」を職員一人一人が共有できるように努めている。	理念は、玄関と各リビングに掲示している。職員と何かをする際には、理念に触れて実践するようにしている。評価委員が見学した際に、職員と利用者が【アットホームな関係】を築けている様子が窺え、理念が浸透していると感じた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館に地域の人が集まるカフェが設置しており、職員と利用者が一緒に行く事がある。また、春や秋の気候が良い時に散歩がてら職員と利用者で近所のゴミ拾いをする事がある。	散歩を兼ねたゴミ拾いの際には、自然と挨拶が交わっている。小学校との交流もあり、咲いた花を持ってきてくれ、施設内に飾っている。管理者や主任が地元の消防団に入っていることで繋がりもある。職員が出勤する際に、出会った人と挨拶を交わす関係が当たり前のようにできている。	今できることを考えて、コロナ終焉後に実践できるように準備してみてもいいでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所増設により、グループホーム・小規模多機能の存在やどんな事業所なのか、地域の人に知られるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も、コロナウイルス感染予防の観点から運営推進会議を集まって行うのではなく、資料(書類)のやり取りで12月に行う予定である。	コロナ以前は、包括、民生委員、小学校の校長先生、公民館長、家族の代表が参加していた。現在は、運営状況や入居者の現状や様子、行事などの報告を行い、書面を郵送することで、開催している。	今以上に充実した会議をするための方法を模索してみてもいいでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあればその都都市の担当者に相談し、指導・助言を受けている。2か月に一回市が行う連絡協議会に参加し、最新の情報共有が出来ている。市の要望で災害時の避難所として申請する等、協力関係ができています。	代表や管理者が窓口となっている。加算の変更や何がわからないことがあれば、親切・丁寧に教えてくれる関係ができています。空き状況の確認などの情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化の為の指針を軸に3か月に1回身体拘束適正化検討委員会を開催し、職員の研修も行っている。	拘束はなし。会議内容は、事例を取り上げたり、グレーゾーンの確認もしたりして、全職員で確認し共有ができています。何かあった際には、上司は状況を確認した上で、指導するように配慮している。ここが我が家なので日中は、施錠をせずに外出やユニット間の行き来も可能もなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待という言葉は範囲が広く言葉の暴力や、介護拒否等さまざまな虐待があるため、月に一回のミーティングで話し合いをし、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に、成年後見人制度を活用された入居者家族もいた為、会議等で話せる機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定・重要事項は、契約時に十分な説明を行うようにしている。規定内容を全て理解していただくのは難しいが、必要な事項について十分に説明していくよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の様子を伝える個別報告書を毎月家族に送り、忘年会や日帰り旅行等家族参加行事も企画して、情報提供・家族同士の交流を促進している。運営推進会議に家族も出席しているので、公の発言の場も提供できている。	家族には、利用者の様子がわかる「たんぼぼだより」や個別に撮った写真を郵送している。利用者の意見で吊るし柿をして、食べたら喜んで頂けた。家族の方の意見を一番に尊重し、家族のやりたいような支援を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて運営や職員の意見や提案について職員全員で理解できるように話し合いを行っている。	主任がゲートキーパー役となっている。普段からのコミュニケーションを大切にしている、個人面談では、様々な意見が出てるので、介護の参考となっている。最後の職場は「たんぼぼ」での思いがあり、離職率が少なくなった。職員の意見で案山子コンテストに参加したら好評だった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一回のミーティングにおいて、職員の気持ち等、出来る限り聴ける場を設けて改善できることはすぐに改善している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営会議を月に1回設け話し合う機会を多く持つようにしている。また、GHでは、代表者、管理者、計画作成担当者、職員代表と問題や伝達事項があれば随時、話し合う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナウイルス感染予防の観点からしていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ミーティングにて、入居者の要望や不安等職員全員で話せる機会を設けており安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、家族と連絡及び面会時に話を行うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の気持ちを第一に考え、サービス導入時やそれ以降のサービス変更時においても面会時等に話し合いを行い、その人らしい生活や生きがいを見つけて支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	冗談を言い合ったり、たまにはけんかをしたり、職員の悩み事を入居者に相談したりと家族のような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年、家族を含めた忘年会や旅行に行ったり、お盆や年末年始は家族と過ごせるよう働きかけているが、今年度は家族との面会もあまり行えないので、手紙、テレビ電話等少しでも会わずに繋がれる工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつもなら、地元の夏祭りの踊りに利用者と一緒に参加したり、本人が行った事のある神社に個別の初詣をする等、昔からの馴染みを大切にしたい支援を心掛けていたが、今年度はイベント、地域の集まりは、自治体が中止したり、こちらが自粛している。	家族から途中まで書いた絵手紙が届き、続きを利用者が書くことで、馴染みの関係が継続できている。近所のお寺に鐘を付きに行ったり、桜を見に行ったりしている。入居後すぐに、近所に住んでいた方がよく面会に来られ、会いたい人がいれば誰でも受け入れる体制が整っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の会話に職員も加わり、楽しく過ごせるように支援している。入居者同氏がけんかになった場合は、職員が間に入り、和解できるよう支援している。GHと小規模の利用者交流も多くある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、担当職員やケアマネ等より現状報告を確認し、出来る限り関係は大切にしていこうと努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方はここに違うためそれを尊重していくようにしている。困難な場合は、本人の表情や行動を観察しながらその場に応じて対応している。	言葉を発しない方は、家族の意見や生活歴から把握するようにしている。あまり話さない方が、歌が好きだということがわかり、職員が傍で歌ったら、一緒に歌ってくれるようになった。管理者は「一緒に楽しく過ごしたい気持ちが一番大事」と語ってくれたのが印象的だった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り情報提供を多く収集して理解し把握に努めている。居室には、本人の馴染みのある筆筒や写真が飾られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表や日報、申し送りにより一人一人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの希望を盛り込んだケアプランを作成し、支援を実行している。3か月に1回モニタリングをしながら、利用者の現状に即したプランの見直し変更を定期的に行っている。	入居時にケアプランを作成し、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要に応じてプランの変更をしている。毎月のミーティングで詳細な申し送りで確認し、2週間ごとに来所する往診医と看護師との意見をプランに反映させながら、以前のプランを利用者に順応できるように対処している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員だけでなく、誰が見ても分かりやすい記録を作成し職員全体で把握・共有できるようにしている。業務日報に必要な記録や職員全体に伝えたいことを記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、GHでの生活は変化するため柔軟に対応できるようにしている。天気が良ければ散歩したりドライブをしたりとその日の状況に合わせた対応を出来る限りしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の清掃ボランティアや地域の祭りへの参加など、子供達や地域の方々と利用者が交流する機会を多く持つようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として家族にお願いしているが、家族が困難な場合はホームでも支援しており、2週間に一度主治医の往診もあるので、それぞれのかかりつけ医との関係は構築できている。歯科や内科等、ホームの協力医も確保できている。	受診も家族の意見を尊重している。入居時に提携医をどこにするか選択できるが、殆どの方が利便性を感じて提携医に転院する。契約時に通院の介助を家族にして頂くように説明し、殆ど職員が通院を介助している。その他、訪問歯科が適宜来所し、気軽に何でも話し合える関係が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医師と連絡をとり、入居者の日々の状態を把握し、体調の変化にすぐ気づき適切な対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関だけでなく、地域の病院その他、かかりつけの病院との連携を積極的に行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・主治医と、ターミナルに向けた話し合いをし、おだやかな看取りができた事例もあり、本人・家族がホームでの看取りを希望されれば、ホームとして出来る限りの支援をしたいと考えている。	看取りは今年はない。近年、往診医の指導の効果で、職員がキャリアし、今まで以上に看取りに積極性が増している。看取り期に入ると、利用者それぞれに関わり方を変え、ミニ事例検討会を繰り返し広げている。看取り後は、毎月のミーティングで振り返り、今後に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成して周知徹底を行っている。応急処置や手当等についてはすぐに読むことができるように決められた場所に保管しいつでも見れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度ごとに、消防訓練計画書を作成し、マニュアルも作成している。最低、年2回は消防訓練を実施できるように努める。	年2回、地震、火災、水害の避難訓練を実施し、消火器の使い方も学んでいる。様々な災害を想定した、災害マニュアルも完備している。連絡網は各ユニットの電話付近に掲載している。備蓄は、食料や水が3日分程度、各ユニットで保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングにて、言葉かけやケアの対応について話し合いを行っている。ケアマニュアルを作成している。	呼称は、苗字に「さん」付けだが、個人の要望に合わせた呼び方で呼んでいる。その際に、家族の方の前でも呼べる名称で呼ぶようにしている。排泄失敗時には、扉を閉めて見えにくくしたり、「気にせんでええよ」と優しく耳元で囁くことで、自尊心を傷つけないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の訴えや思いを言える環境を作っていくようにしている。家族の協力が必要な場合は、家族にも支援していただけるように相談や話し合いも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画をミーティングにて全職員に伝達すると共にその人らしい生活が送れるように支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを重視し身だしなみやおしゃれが常に行えるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の状態に合わせミキサー食等、食べやすいよう配慮し、介助の必要な人の傍らには職員が付いて、皆で談笑しながら食事している。食事班の職員を配して、旬の食材を活かした美味しい食事提供に努め、食事は皆の楽しみになっている。	届いた食材を利用し、職員が調理し、ほとんどの職員が利用者と同じものを食べている。旬な食材を使い季節感も味わって頂いている。利用者が畑で毎日水をやって育てた、いもを食したら美味しかった。行事の際には、調理に参加した利用者がつまみ食いする場面も楽しい日常の風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事状況を把握し、栄養やバランス・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、歯磨きのできる方には声かけを行い困難な方には口腔ケアを行い、義歯についても清潔な状態で使用できるようにして、常に口腔内を清潔に保持できるよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、タイミングを見て声を掛け、トイレ誘導していた。失禁が減ったり、パット使用の人が、無くて大丈夫になる等、改善事例も多い。	トイレは両ユニット合わせて7ヶ所ある。排泄チェック表の活用した結果、リハパンから布パンツに改善した事例が多くあり、家族の財布に優しい。個別の時間帯を把握することで、スムーズな誘導ができ、トイレへの誘導時には、「ちょっと歩こうや」とさり気ない言葉かけをするように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整・ヨーグルトやバナナジュース等食事にも工夫して自然排便できるように努め水分補給についてもイオンゼリー等を活用し水分を摂取できるように工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は事故が多く、入居者の方も緊張しながら入浴されるため言葉かけや誘導を重視する。また、全身観察にも努めるようにしている。	現在はお風呂の故障の関係で週2回の提供となっているが、通常は週3回。毎日の入浴も可能で、機械浴もできる。嫌がる人へは、「ちょっと歩こうか」と言葉をかけて、お風呂場周辺を歩き、入浴介助の職員から言葉をかけることで、スムーズな介助ができています。季節湯として、ゆず湯の提供もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中は、起きていただくように軽作業等していただいて、夜ぐっすり眠れるようにしている。入居者より休みたいとの希望があれば居室へ誘導し、ベッドに横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理は、一人ひとりの職員が把握できるようにし、臨時処方等は記入し全職員が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換については、ドライブや散歩等を行っている。また、折り鶴作りや季節の壁画を作ったり、食事の準備や洗濯物干し、洗濯物たたみを一人ひとりの力に応じてできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行で、外出は控えているが、天気の良い日に近所を散歩したりは感染予防に留意しながらいつも通り行っている。	春には桜を見ながらお弁当を食べ、夏にはひまわり、秋には近隣の公園で紅葉を見に行った。行事を大切にしている、5月には柏餅作り、7月には短冊に願い事を書き、8月にはスイカ割をした。外出が出来にくい中で、施設内でできることを増やし、フラストレーションが溜まらないように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ちたいとの訴えがある方には家族の方と相談の上、できるだけ金銭管理を支援しています。買い物も職員付添のもと行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは、出来る限り支援している。(家族が、負担にならないように相談をしながら)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	とにかく広い、GHと小規模が直線の平屋で繋がっている為、ドア窓を開けると心地よい風が建物全体を通って行く。壁には入居者と作った季節の壁紙を貼って飾りつけをしたり、季節の花を入居者に生けて貰っている。	リビングでは、職員が仕事をしながら利用者とは話をしているアットホームな感じが見られた。新聞を読んだり、黒ひげ危機一髪や将棋などの好きな事を楽しんでいる様子が窺えた。現在は、クリスマスの飾り付けで彩られていて、季節が感じられた。ほとんどの利用者が居心地の良い、リビングで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士で席が決まっており、一人になりたいときは、居室に戻られたりして調整しながらストレスがないように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく馴染みのあるタンスや鏡台等を持参していただくと共に、自分の部屋だと分かるように出入口付近へ写真を飾っている。	ベット、クローゼット、照明、エアコンが備え付け。窓から見える自然の田園風景が、利用者の癒しとなっている。家族や孫の写真を貼っていて、いつでも家族の顔が見れ、仏壇を持ち込む方もいて、毎日手を合わせて家族を偲ぶ姿が目に見え、きた。テレビや読書を楽しめる自分らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中にリハビリをという考えのもと、広いパブリックスペースでゆったりと安全に自立した生活が出来るよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700415		
法人名	合資会社 在宅介護サービス たんぽぽ		
事業所名	グループホーム たんぽぽ (B棟)		
所在地	岡山県井原市下稲木町1268番地1		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>●ご利用者様が、安心・癒し・楽しみながら生活できるように、敷地面積を広くして昔の長屋をイメージした作りをしています。又、食堂や居間・トイレ等、広い空間を歩くことにより生活リハも活かされるようになっております。</p> <p>●稲倉地区ならではの季節行事等にも積極的に参加させていただき地域の人々との交流もあります。</p> <p>●近くの小学校の授業の一環としてグループホーム内の清掃活動や入居者との触れあう機会もあります。</p> <p>●事業所から一歩外へ出るとたんぽぽが一面に広がり、稲を植え、収穫等季節感が味わえる風景があります。</p> <p>●事業所敷地内に小さな畑があり、ご利用者様主体で季節の野菜を栽培しています。</p> <p>●基本的には玄関等扉は施錠せず、事業所全体が開放的な空間を維持し、ご利用者様が窮屈な思いをしないように工夫しています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370700415-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 11 月 24 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設内のコミュニケーションが高く取れている、人間性を以って、上司、管理者、代表が関与できる関係があり、職員が気持ちよく就業できている。職員は、施設から見ると利用者をファミリーである意識を高く持っていて、そのサービスを常に追求し、家族である安心感を高めている。外出しても、不安で帰りたい願望を出す利用者がいても、「GHたんぽぽに帰りたい。」という気持ちになるような日常の状況を築いている。畑仕事や、利用者の意見で吊るし柿を作る作業、そのお膳立てを職員が家の柿を持ってきたり、職員家で案山子づくりをしたりして、帰りたい願望をいかになくし、どのようにすれば良いかを模索することで、家族からの様々な心配の電話が減った。さらに心配克服を家族に訴える方法として、一緒に墓参りに行ったり、写真を撮ったりして、家族観を深めている。施設内でも、職員とコミュニケーションをしっかりと、管理者は、職員の普通の会話から悩みまで、お互いの腹の中を引き出し、夜勤時には、普段着のさりげないおしゃべりから心から溶け込み、何でも言える関係を築き、「職員はまとまってきた」、「人づくりは他所よりもしている」と管理者は自信を以っているのも窺えた。もちろん、職員の関係もまだまだ不満も多少ありがちだが、以前より落ち着いてきたのは言うまでもない。また、職員の年齢も高くなってきているが、「なんとか動けるまでは、頑張り続けたい」との意見も多く、「この施設に勤めて楽しかったと言えるような施設にしていきたい」と管理者は語る。職員が愉しく、食事と一緒に同じ空間を過ごし、利用者の人生に恩返しができる体制が徐々に産まれてきた。特に、ゲートキーパー役の職員がいて、管理者に一部始終伝える橋渡しをしているので、ソフトな深い絆が職員間で、よい風通しの関係となっている。とにかく組織的に時間をかけたことで、落ち着いた利用者思いの関係が築かれている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	他の施設には無い圧倒的なアットホーム感がたんぼの魅力と考える。利用者はもちろんのこと職員までもが、自分の家の様に生活する事を目指している。理念である「私たちは、自分の親を見てもらいたい施設を目指します」を職員一人一人が共有できるように努めている。	理念は、玄関と各リビングに掲示している。職員と何かをする際には、理念に触れて実践するようにしている。評価委員が見学した際に、職員と利用者が【アットホームな関係】を築けている様子が窺え、理念が浸透していると感じた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館に地域の人が集まるカフェが設置しており、職員と利用者が一緒に行く事がある。また、春や秋の気候が良い時に散歩がてら職員と利用者で近所のゴミ拾いをする事がある。	散歩を兼ねたゴミ拾いの際には、自然と挨拶が交わっている。小学校との交流もあり、咲いた花を持ってきてくれ、施設内に飾っている。管理者や主任が地元の消防団に入っていることで繋がりもある。職員が出勤する際に、出会った人と挨拶を交わす関係が当たり前のようにできている。	今できることを考えて、コロナ終焉後に実践できるように準備してみてもいいでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所増設により、グループホーム・小規模多機能の存在やどんな事業所なのか、地域の人に知られるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も、コロナウイルス感染予防の観点から運営推進会議を集まって行うのではなく、資料(書類)のやり取りで12月に行う予定である。	コロナ以前は、包括、民生委員、小学校の校長先生、公民館長、家族の代表が参加していた。現在は、運営状況や入居者の現状や様子、行事などの報告を行い、書面を郵送することで、開催している。	今以上に充実した会議をするための方法を模索してみてもいいでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあればその都都市の担当者に相談し、指導・助言を受けている。2か月に一回市が行う連絡協議会に参加し、最新の情報共有が出来ている。市の要望で災害時の避難所として申請する等、協力関係ができています。	代表や管理者が窓口となっている。加算の変更や何がわからないことがあれば、親切・丁寧に教えてくれる関係ができています。空き状況の確認などの情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化の為の指針を軸に3か月に1回身体拘束適正化検討委員会を開催し、職員の研修も行っている。	拘束はなし。会議内容は、事例を取り上げたり、グレーゾーンの確認もしたりして、全職員で確認し共有ができています。何かあった際には、上司は状況を確認した上で、指導するように配慮している。ここが我が家なので日中は、施錠をせずに外出やユニット間の行き来も可能もとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待という言葉は範囲が広く言葉の暴力や、介護拒否等さまざまな虐待があるため、月に一回のミーティングで話し合いをし、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に、成年後見人制度を活用された入居者家族もいた為、会議等で話せる機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定・重要事項は、契約時に十分な説明を行うようにしている。規定内容を全て理解していただくのは難しいが、必要な事項について十分に説明していくよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の様子を伝える個別報告書を毎月家族に送り、忘年会や日帰り旅行等家族参加行事も企画して、情報提供・家族同士の交流を促進している。運営推進会議に家族も出席しているので、公の発言の場も提供できている。	家族には、利用者の様子がわかる「たんぼぼだより」や個別に撮った写真を郵送している。利用者の意見で吊るし柿をして、食べたら喜んで頂けた。家族の方の意見を一番に尊重し、家族のやりたいような支援を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて運営や職員の意見や提案について職員全員で理解できるように話し合いを行っている。	主任がゲートキーパー役となっている。普段からのコミュニケーションを大切にしている、個人面談では、様々な意見が出てるので、介護の参考となっている。最後の職場は「たんぼぼ」での思いがあり、離職率が少なくなった。職員の意見で案山子コンテストに参加したら好評だった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一回のミーティングにおいて、職員の気持ち等、出来る限り聴ける場を設けて改善できることはすぐに改善している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営会議を月に1回設け話し合う機会を多く持つようにしている。また、GHでは、代表者、管理者、計画作成担当者、職員代表と問題や伝達事項があれば随時、話し合う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナウイルス感染予防の観点からしていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ミーティングにて、入居者の要望や不安等職員全員で話せる機会を設けており安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、家族と連絡及び面会時に話を行うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の気持ちを第一に考え、サービス導入時やそれ以降のサービス変更時においても面会時等に話し合いを行い、その人らしい生活や生きがいを見つけて支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	冗談を言い合ったり、たまにはけんかをしたり、職員の悩み事を入居者に相談したりと家族のような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年、家族を含めた忘年会や旅行に行ったり、お盆や年末年始は家族と過ごせるよう働きかけているが、今年度は家族との面会もあまり行えないので、手紙、テレビ電話等少しでも会わずに繋がれる工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつもなら、地元の夏祭りの踊りに利用者と一緒に参加したり、本人が行った事のある神社に個別の初詣をする等、昔からの馴染みを大切にしたい支援を心掛けているが、今年度はイベント、地域の集まりは、自治体が中止したり、こちらが自粛している。	家族から途中まで書いた絵手紙が届き、続きを利用者が書くことで、馴染みの関係が継続できている。近所のお寺に鐘を付きに行ったり、桜を見に行ったりしている。入居後すぐに、近所に住んでいた方がよく面会に来られ、会いたい人がいれば誰でも受け入れる体制が整っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の会話に職員も加わり、楽しく過ごせるように支援している。入居者同氏がけんかになった場合は、職員が間に入り、和解できるよう支援している。GHと小規模の利用者交流も多くある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、担当職員やケアマネ等より現状報告を確認し、出来る限り関係は大切にしていこうと努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方はここに違うためそれを尊重していくようにしている。困難な場合は、本人の表情や行動を観察しながらその場に応じて対応している。	言葉を発しない方は、家族の意見や生活歴から把握するようにしている。あまり話さない方が、歌が好きだということがわかり、職員が傍で歌ったら、一緒に歌ってくれるようになった。管理者は「一緒に楽しく過ごしたい気持ちが一番大事」と語ってくれたのが印象的だった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り情報提供を多く収集して理解し把握に努めている。居室には、本人の馴染みのある筆筒や写真が飾られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表や日報、申し送りにより一人一人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの希望を盛り込んだケアプランを作成し、支援を実行している。3か月に1回モニタリングをしながら、利用者の現状に即したプランの見直し変更を定期的に行っている。	入居時にケアプランを作成し、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要に応じてプランの変更をしている。毎月のミーティングで詳細な申し送りで確認し、2週間ごとに来所する往診医と看護師との意見をプランに反映させながら、以前のプランを利用者に順応できるように対処している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員だけでなく、誰が見ても分かりやすい記録を作成し職員全体で把握・共有できるようにしている。業務日報に必要な記録や職員全体に伝えたいことを記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、GHでの生活は変化するため柔軟に対応できるようにしている。天気が良ければ散歩したりドライブをしたりとその日の状況に合わせた対応を出来る限りしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の清掃ボランティアや地域の祭りへの参加など、子供達や地域の方々と利用者が交流する機会を多く持つようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として家族にお願いしているが、家族が困難な場合はホームでも支援しており、2週間に一度主治医の往診もあるので、それぞれのかかりつけ医との関係は構築できている。歯科や内科等、ホームの協力医も確保できている。	受診も家族の意見を尊重している。入居時に提携医をどこにするか選択できるが、殆どの方が利便性を感じて提携医に転院する。契約時に通院の介助を家族にして頂くように説明し、殆ど職員が通院を介助している。その他、訪問歯科が適宜来所し、気軽に何でも話し合える関係が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医師と連絡をとり、入居者の日々の状態を把握し、体調の変化にすぐ気づき適切な対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関だけでなく、地域の病院その他、かかりつけの病院との連携を積極的に行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・主治医と、ターミナルに向けた話し合いをし、おだやかな看取りができた事例もあり、本人・家族がホームでの看取りを希望されれば、ホームとして出来る限りの支援をしたいと考えている。	看取りは今年はない。近年、往診医の指導の効果で、職員がキャリアし、今まで以上に看取りに積極性が増している。看取り期に入ると、利用者それぞれに関わり方を変え、ミニ事例検討会を繰り返し広げている。看取り後は、毎月のミーティングで振り返り、今後に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成して周知徹底を行っている。応急処置や手当等についてはすぐに読むことができるように決められた場所に保管しいつでも見れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度ごとに、消防訓練計画書を作成し、マニュアルも作成している。最低、年2回は消防訓練を実施できるように努める。	年2回、地震、火災、水害の避難訓練を実施し、消火器の使い方も学んでいる。様々な災害を想定した、災害マニュアルも完備している。連絡網は各ユニットの電話付近に掲載している。備蓄は、食料や水が3日分程度、各ユニットで保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングにて、言葉かけやケアの対応について話し合いを行っている。ケアマニュアルを作成している。	呼称は、苗字に「さん」付けだが、個人の要望に合わせた呼び方で呼んでいる。その際に、家族の方の前でも呼べる名称で呼ぶようにしている。排泄失敗時には、扉を閉めて見えにくくしたり、「気にせんでええよ」と優しく耳元で囁くことで、自尊心を傷つけないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の訴えや思いを言える環境を作っていくようにしている。家族の協力が必要な場合は、家族にも支援していただけるように相談や話し合いも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画をミーティングにて全職員に伝達すると共にその人らしい生活が送れるように支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを重視し身だしなみやおしゃれが常に行えるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の状態に合わせてミキサー食等、食べやすいよう配慮し、介助の必要な人の傍には職員が付いて、皆で談笑しながら食事している。食事班の職員を配して、旬の食材を活かした美味しい食事提供に努め、食事は皆の楽しみになっている。	届いた食材を利用し、職員が調理し、ほとんどの職員が利用者と同じものを食べている。旬な食材を使い季節感も味わって頂いている。利用者が畑で毎日水をやって育てた、いもを食したら美味しかった。行事の際には、調理に参加した利用者がつまみ食いする場面も楽しい日常の風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事状況を把握し、栄養やバランス・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、歯磨きのできる方には声かけを行い困難な方には口腔ケアを行い、義歯についても清潔な状態で使用できるようにして、常に口腔内を清潔に保持できるよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、タイミングを見て声を掛け、トイレ誘導していた。失禁が減ったり、パット使用の人が、無くて大丈夫になる等、改善事例も多い。	トイレは両ユニット合わせて7ヶ所ある。排泄チェック表の活用した結果、リハパンから布パンツに改善した事例が多くあり、家族の財布に優しい。個別の時間帯を把握することで、スムーズな誘導ができ、トイレへの誘導時には、「ちょっと歩こうや」とさり気ない言葉かけをするように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整・ヨーグルトやバナナジュース等食事にも工夫して自然排便できるように努め水分補給についてもイオンゼリー等を活用し水分を摂取できるように工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は事故が多く、入居者の方も緊張しながら入浴されるため言葉かけや誘導を重視する。また、全身観察にも努めるようにしている。	現在はお風呂の故障の関係で週2回の提供となっているが、通常は週3回。毎日の入浴も可能で、機械浴もできる。嫌がる人へは、「ちょっと歩こうか」と言葉をかけて、お風呂場周辺を歩き、入浴介助の職員から言葉をかけることで、スムーズな介助ができています。季節湯として、ゆず湯の提供もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中は、起きていただくように軽作業等していただいて、夜ぐっすり眠れるようにしている。入居者より休みたいとの希望があれば居室へ誘導し、ベッドに横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理は、一人ひとりの職員が把握できるようにし、臨時処方等は記入し全職員が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換については、ドライブや散歩等を行っている。また、折り鶴作りや季節の壁画を作ったり、食事の準備や洗濯物干し、洗濯物たたみを一人ひとりの力に応じてできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行で、外出は控えているが、天気の良い日に近所を散歩したりは感染予防に留意しながらいつも通り行っている。	春には桜を見ながらお弁当を食べ、夏にはひまわり、秋には近隣の公園で紅葉を見に行った。行事を大切にしている、5月には柏餅作り、7月には短冊に願い事を書き、8月にはスイカ割をした。外出が出来にくい中で、施設内でできることを増やし、フラストレーションが溜まらないように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ちたいとの訴えがある方には家族の方と相談の上、できるだけ金銭管理を支援しています。買い物も職員付添のもと行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは、出来る限り支援している。(家族が、負担にならないように相談をしながら)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	とにかく広い、GHと小規模が直線の平屋で繋がっている為、ドア窓を開けると心地よい風が建物全体を通って行く。壁には入居者と作った季節の壁紙を貼って飾りつけをしたり、季節の花を入居者に生けて貰っている。	リビングでは、職員が仕事をしながら利用者と会話をしているアットホームな感じが見られた。新聞を読んだり、黒ひげ危機一髪や将棋などの好きな事を楽しんでいる様子が窺えた。現在は、クリスマスの飾り付けで彩られていて、季節が感じられた。ほとんどの利用者が居心地の良い、リビングで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士で席が決まっており、一人になりたいときは、居室に戻られたりして調整しながらストレスがないように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく馴染みのあるタンスや鏡台等を持参していただくと共に、自分の部屋だと分かるように出入口付近へ写真を飾っている。	ベット、クローゼット、照明、エアコンが備え付け。窓から見える自然の田園風景が、利用者の癒しとなっている。家族や孫の写真を貼っていて、いつでも家族の顔が見れ、仏壇を持ち込む方もいて、毎日手を合わせて家族を偲ぶ姿が目に見え、きた。テレビや読書を楽しめる自分らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中にリハビリをという考えのもと、広いパブリックスペースでゆったりと安全に自立した生活がおくれるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				